

# 2026年3月期 第1四半期 決算説明資料

2025年8月5日



ダイワボウホールディングス株式会社

(証券コード：3107)

ダイワボウホールディングス IR広報室の山田です。  
本日はお集まりいただきありがとうございます。  
2026年3月 第1四半期の決算についてご説明申し上げます。

**2026年3月期 第1四半期**（2025年4月1日～2025年6月30日）

## 販売伸長と収益性改善が業績を拡大 連結業績予想を上方修正

### ITインフラ 流通事業

- 中堅・中小企業向けに本格化したWindows10更新需要を着実に獲得。収益性が改善したことで1Q最高の売上高と営業利益を更新
- iKAZUCHI(雷) は、PC更新時のクロスセル提案による実績拡大で高成長を継続
- GIGAスクール第2期は、昨年度末以降に入札・受注した案件の納入が始まる

### 産業機械事業

- 工作機械部門において大型機の売上計上、また工作機械・自動機械両部門におけるサービス体制強化が収益性向上に寄与し増収増益
- 主力となる航空機業界を始め、国内の受注状況は回復傾向

### 株主還元

- 6月19日に上限80億円の自己株式取得を発表（期間：2025年7月1日～2026年2月27日）

### 関税の影響

- 米国の相互関税とそれに伴う為替変動の影響について、直接的な影響は受けにくいと想定しているものの、間接的な影響も含めて今後の状況を注視

第1四半期のハイライトです。

ITインフラ流通事業において中堅・中小企業向けに本格化したWindows10更新需要を着実に獲得し、第1四半期の業績において、過去最高の売上高および営業利益を達成しました。注力している「iKAZUCHI(雷)」を活用したサブスクのビジネスについては、PCとのクロスセルにより高い成長を維持しています。

産業機械事業は、工作機械部門において大型機の売上計上、また工作機械・自動機械両部門におけるサービス体制強化により収益性が向上し増収増益となりました。

各事業の状況については後ほどご説明いたします。

株主還元については、上限80億円の自己株式取得を7月1日から開始しております。

関税の影響については、現時点で直接的な影響は受けにくいと想定しておりますが、間接的な影響も含めて状況を注視して参ります。

## 2026年3月期 2Q累計業績予想 <上方修正>



(百万円)	2024/9 (①実績)		2025/9 (期初予想)		2025/9 (②修正予想)		前期増減 (②-①)	前期比
	金額	率	金額	率	金額	率		
<b>売上高</b>	517,383		625,800		<b>640,000</b>		+122,616	+23.7%
ITインフラ流通	511,053		619,600		<b>633,800</b>		+122,746	+24.0%
産業機械	6,329		6,200		<b>6,200</b>		△129	△2.0%
<b>営業利益</b>	13,522	2.6%	16,870	2.7%	<b>21,900</b>	3.4%	+8,377	+62.0%
ITインフラ流通	13,170	2.6%	16,450	2.7%	<b>21,480</b>	3.4%	+8,309	+63.1%
産業機械	348	5.5%	420	6.8%	<b>420</b>	6.8%	+71	+20.6%
<b>経常利益</b>	13,839	2.7%	17,020	2.7%	<b>22,050</b>	3.4%	+8,210	+59.3%
親会社株主に帰属する <b>中間純利益</b>	9,474	1.8%	11,700	1.9%	<b>15,100</b>	2.4%	+5,625	+59.4%
1株当たり 中間純利益 (円)	102.52		130.26		<b>168.38</b>		+65.85	

### 修正理由

第2四半期についてもWindows10サポート終了とGIGAスクール第2期によるPC需要が継続する見通しのため、第2四半期累計期間の業績予想を修正

業績予想の修正についてご説明いたします。

好調な第1四半期の業績より、上期の業績予想を修正いたしました。

売上高6,400億円、営業利益を219億円に上方修正いたします。

ITインフラ流通事業において、10月にサポートが終了するWindows10の更新需要がピークを迎えることと、GIGAスクールの需要が本格化するタイミングとなり、第2四半期も好調に推移する見通しです。

## 2026年3月期 通期業績予想 <上方修正>



(百万円)	2025/3 (①実績)		2026/3 (期初予想)		2026/3 (②修正予想)		前期増減 (②-①)	前期比
	金額	率	金額	率	金額	率		
<b>売上高</b>	1,136,817		1,265,800		<b>1,280,000</b>		+143,182	+12.6%
ITインフラ流通	1,123,922		1,254,000		<b>1,268,200</b>		+144,277	+12.8%
産業機械	12,895		11,800		<b>11,800</b>		△1,095	△8.5%
<b>営業利益</b>	34,899	3.1%	38,500	3.0%	<b>43,530</b>	3.4%	+8,630	+24.7%
ITインフラ流通	34,045	3.0%	37,800	3.0%	<b>42,830</b>	3.4%	+8,784	+25.8%
産業機械	852	6.6%	700	5.9%	<b>700</b>	5.9%	△152	△17.9%
<b>経常利益</b>	35,454	3.1%	38,800	3.1%	<b>43,830</b>	3.4%	+8,375	+23.6%
親会社株主に帰属する <b>当期純利益</b>	24,751	2.2%	26,700	2.1%	<b>30,100</b>	2.4%	+5,348	+21.6%
1株当たり 純利益 (円)	271.37		297.26		<b>335.73</b>		+64.36	

### 修正理由

第2四半期累計期間の業績予想修正に伴い、通期連結業績予想を修正  
下期（25年10月～26年3月末期間）の業績予想は変更なし

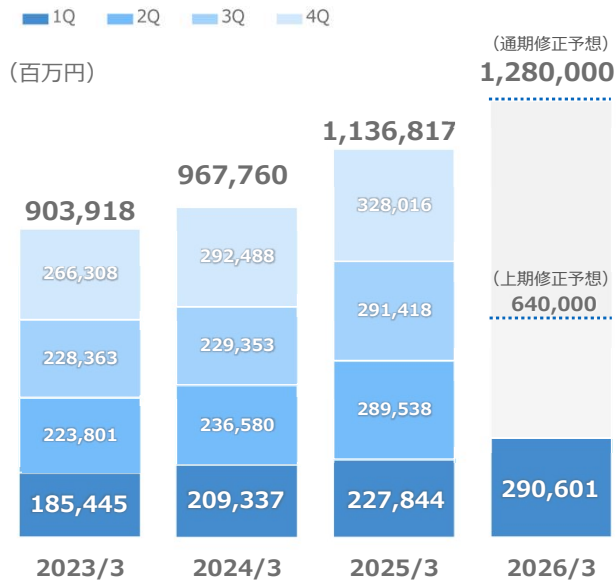
上期の修正に伴い、通期業績予想も上方修正となります。

売上高1兆2800億円、営業利益435億円に修正いたしました。

こちらは、上期の増加分を反映した業績予想となります。

下期については、前年のWindows更新需要が剥落しますが、GIGAスクールの需要とオーガニックな成長により前年実績を上回る期初の見通しに変更はなく、今回修正は行っておりません。

## 2026年3月期 1Q累計 売上高



売上高 **290,601**百万円

前期比 + **27.5%**

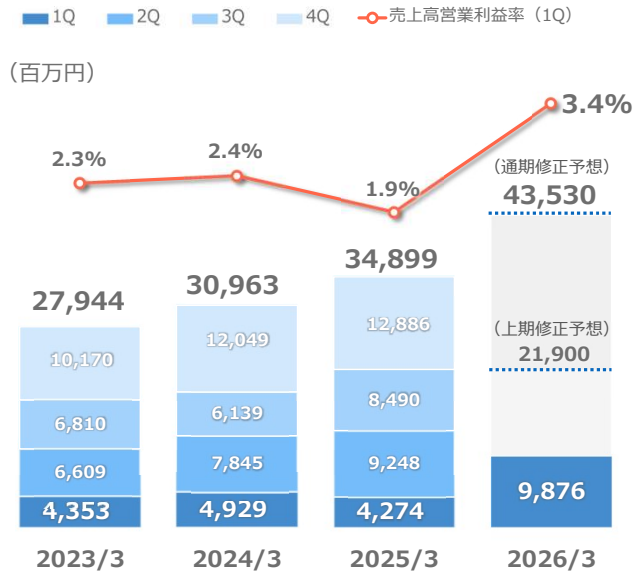
進捗率 上期 **45.4%** / 通期 **22.7%**

**1Q最高売上高を更新**

2026年3月期第1四半期についてご報告いたします。

第1四半期の売上高は過去最高の実績となりました。  
売上高は2,906億円、前期比で27.5%の増収、  
今回修正した上期業績予想に対しては、45.4%の進捗となっております。

# 2026年3月期 1Q累計 営業利益



営業利益 **9,876**百万円

前期比 +**131.1%**

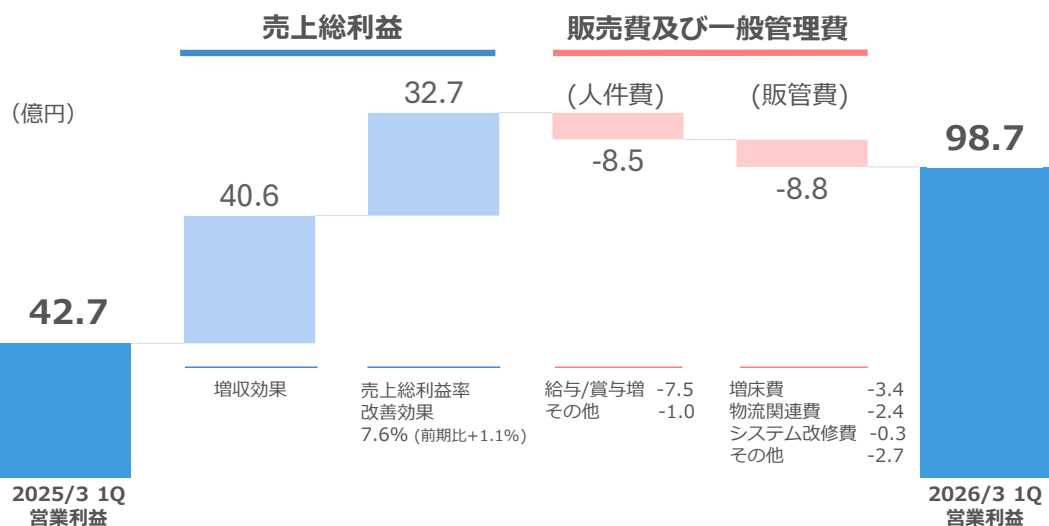
営業利益率 **3.4%**

進捗率 上期 **45.1%** / 通期 **22.7%**

**営業利益率が改善し  
1Q最高営業利益を更新**

営業利益の推移です。  
 こちらも第1四半期として過去最高の実績となります。  
 営業利益98億円、前期比131.1%の増益となりました。  
 上期の進捗率は45.1%となります。

# 営業利益 推移（1Q実績）



売上高伸長と売上総利益率改善が販管費の増加を上回った結果、1Qとして過去最高の営業利益を更新

こちらは営業利益の推移になります。  
前年と比較し、売上高の増加と、粗利率の改善効果により大幅な増益となりました。

## 2026年3月期 1Q累計 連結決算概況



(百万円)	2025/3 1Q	2026/3 1Q	増減	前期比	上期計画	進捗率
売上高	227,844	<b>290,601</b>	+62,757	+27.5%	640,000	45.4%
営業利益	4,274	<b>9,876</b>	+5,602	+131.1%	21,900	45.1%
経常利益	4,528	<b>10,111</b>	+5,582	+123.3%	22,050	45.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,079	<b>7,195</b>	+4,115	+133.7%	15,100	47.6%
1株当たり 四半期純利益 (円)	33.06	<b>80.19</b>				

(百万円)	2025/3	2025/6	増減	主な増減理由
総資産	440,122	<b>420,315</b>	△19,807	現預金及び売上債権等の減少
純資産	152,310	<b>154,623</b>	+2,313	利益剰余金等の増加
自己資本比率	34.6%	<b>36.8%</b>		

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

7

第1四半期の連結決算概況はご覧の通りです。

経常利益は、前期比123.3%増加の101億円、純利益は、前期比133.7%増加の71億円、1株当たりの四半期純利益は80円となっております。

連結の財政状態についてですが、総資産は現金及び預金、売上債権の減少により前期比198億円減の4,203億円。純資産は、利益剰余金の増加により、前期比23億円増加の1,546億円となっております。

なお自己資本比率は、36.8%となります。

## 2026年3月期 1Q累計 セグメント別業績



(百万円)		2025/3 1Q	2026/3 1Q	率	増減	前期比
売上高	ITインフラ流通	226,058	<b>286,734</b>		+60,676	+26.8%
	産業機械	1,786	<b>3,866</b>		+2,080	+116.5%
	合計	227,844	<b>290,601</b>		+62,757	+27.5%
営業利益	ITインフラ流通	4,358	<b>9,492</b>	3.3%	+5,133	+117.8%
	産業機械	△87	<b>379</b>	9.8%	+466	-
	(調整額)	2	4		+1	+69.0%
	合計	4,274	<b>9,876</b>	3.4%	+5,602	+131.1%

売上高 両セグメントとも販売実績の伸長による増収

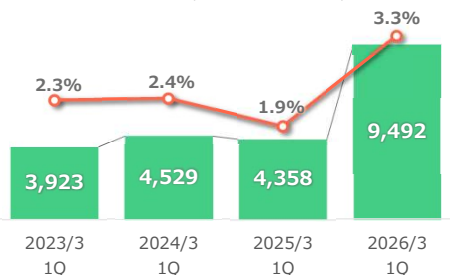
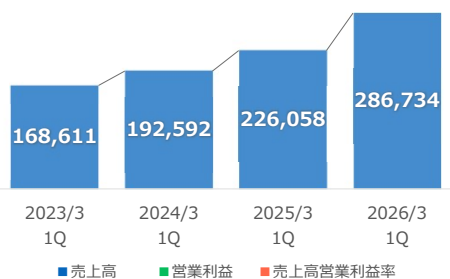
営業利益 ITインフラ流通事業は増収効果と、営業利益率改善による増益  
産業機械事業は増収効果と、収益性の高いサービス売上伸長による増益

こちらはセグメント別の業績です。  
ITインフラ流通事業と産業機械事業ともに大幅な増収増益となりました。

# ITインフラ流通事業



(百万円)



取扱高 ※旧基準売上高	307,939百万円 (前期比+25.4%)
売上高	286,734百万円 (前期比+26.8%)
営業利益	9,492百万円 (前期比+117.8%)

PC出荷台数	119.9万台 (前期比+74.0%)
サーバー出荷台数	1.26万台 (前期比+6.7%)
iKAZUCHI(雷)取扱高	12,953百万円 (前期比+32.8%)

## 事業概況

コーポレート向け市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企業向けは、PCを中心に中小型案件を多数獲得し、売上高の伸長と利益率改善に貢献</li> <li>■ 官公庁・自治体向けは、前年の大型IT整備案件の反動があったものの、地方公共案件の増加により前年を上回る</li> <li>■ 文教向けは、GIGAスクール第2期の共同調達による納入が始まる</li> </ul>
コンシューマ向け市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 量販店向けにWindows更新やAI PCの店舗展開を強化し、コンシューマ全体で前年売上高を上回る</li> </ul>

※「取扱高」の定義についてはP26に記載しています。

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

9

ITインフラ流通事業についてご説明いたします。

この第1四半期、企業向けでは、PCを中心に中小型案件を多数獲得し、売上高の伸長と利益率の改善に貢献しております。前年は大型の案件が目立ちましたが、今期は比較的規模の小さい案件が中心になっていることが特徴です。

地域別に見ても、都市部よりも地方の方が好調に推移しております。その結果、営業利益率3.3%と第1四半期としては高い水準の営業利益を確保することが出来ました。

また注力しているサブスク管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」を通じたクラウドサービスについても、順調に契約を伸ばしており、サブスクビジネスは計画通りの進捗をみせています。

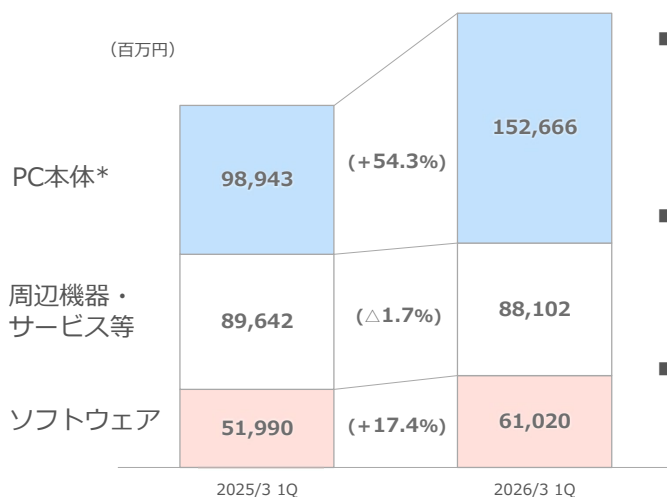
また、GIGAスクールで注目度も高い文教市場ですが、共同調達による納入が徐々に始まっております。

以上の結果、ITインフラ流通事業の売上高は、前期比26.8%増の2,867億円、営業利益は前期比117.8%増の94億円となりました。

# 商品カテゴリ別実績（1Q）



<DISカテゴリ別取扱高推移>



\*PC本体=PC、サーバー、タブレット、スマートフォン等の端末本体  
( ) カッコは前年同期比較

## 2026年3月期1Qハイライト

- PC本体等
  - Windows更新需要のPC出荷（+57.5%）と、GIGAスクールによるタブレット出荷（+93.1%）を含め前期比で大幅に増加
  - サーバーはデータセンター等のITインフラ構築案件を中心に増加（+15.3%）
- 周辺機器・サービス等
  - 昨年獲得した大型案件の反動によりネットワーク（△16.1%）、ストレージ（△23.6%）が減少
  - Windows更新需要やGIGAスクールにより、サービス&サポート（+14.4%）、サブライ等（+10.7%）が伸長
- ソフトウェア等
  - iKAZUCHI(雷)取扱高 +32.8%
  - PC増加によるMicrosoft365のクロスセル提案やGIGAスクールでのソフトウェア購入により、クラウドサービスの実績が伸長
  - IaaS関連サービス（AWS、Azure等）も継続的に拡大

商品カテゴリ別の取扱高実績です。

周辺機器・サービスのカテゴリは前年を下回っておりますが、昨年獲得したネットワークやストレージの大型案件の反動によるものです。こちらの取扱高は若干減少しておりますが、利益率は改善しております。

PC本体は、Windows更新重要および、GIGAスクールによるタブレットも増加しており、好調な業績を牽引しています。

また、ソフトウェアも「iKAZUCHI(雷)」の取り扱い含め、クラウドサービスが伸長しております。

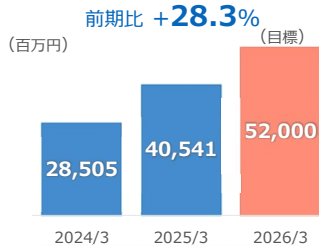
# iKAZUCHI (雷) 経由の取扱高



## iKAZUCHI(雷)を利用した取扱高

サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」を通じた  
販売パートナーへの販売総額（ソフトウェアの内数）

取扱高目標**520億円**



対応ベンダー・サービス数

136ベンダー  
258サービス  
(2025/6)

サブスクリプションビジネスの  
市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化

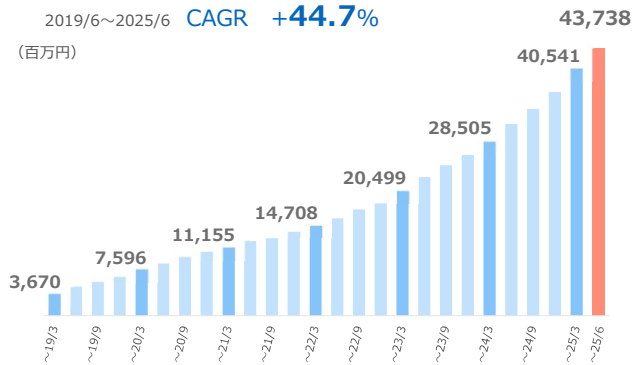


## ■ iKAZUCHI (雷)

12か月累計取扱高の推移 (年額課金等を考慮)

2019/6~2025/6 CAGR **+44.7%**

(百万円)



### iKAZUCHI (雷) の成長軌道

課金形態として年額での購入比率が高いため、四半期毎ではなく12か月累計の推移を見ることで着実な成長を確認

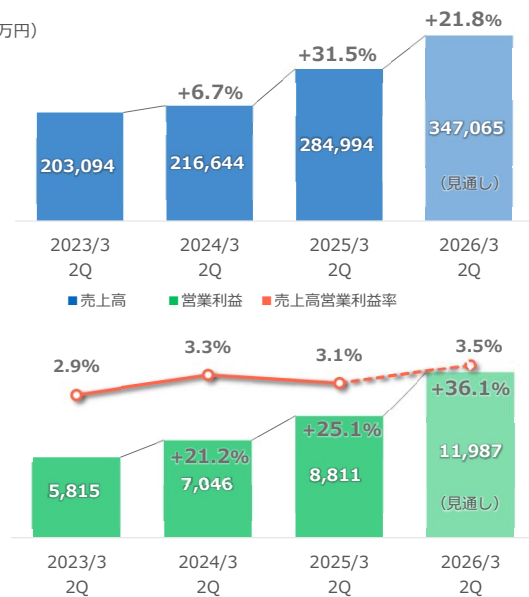
「iKAZUCHI(雷)」経由の取扱高を示したグラフです。

今期の目標は、520億円としており、順調に進捗しています。契約件数やご利用いただくユーザー数は着実に増えており、他社にない優位性を発揮しています。右側のグラフは12か月累計取扱高の推移になりますが、これがストックビジネスとしての安定基盤につながるものと確信しています。

# ITインフラ流通事業 2Q（7月～9月） 予想



(百万円)



## 2Q（7月～9月）の見通し

- Windows更新需要  
10月のサポート終了直前となり需要がピークを迎える見通し
- GIGAスクール第2期  
昨年度末から1Qにかけて獲得した案件について、夏休み期間中の納品が増加するとともに、下期以降に納入となる入札の本格期を迎える
- 営業利益率  
前年は複数獲得した大型案件の影響により営業利益率が低下したが、今期は中小型案件の比率が増加しており、営業利益率の水準は継続する見通し

### ITインフラ流通事業の季節性について

通常は多くの国内企業で決算期となる3月と9月に需要が集中する傾向があるが、今期はPC需要の高まりにより、四半期ごとの業績推移は例年と異なる見通し

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

12

業績修正を行ったITインフラ流通事業の第2四半期予想について当社の見通しをご説明いたします。

Windows更新需要は、10月のサポート終了に向けてピークを迎える予想です。GIGAスクールについても、納入が増加すると見ており、第2四半期の売上高は3,470億円、営業利益は119億円の見通しとなります。

利益率については、好調な第1四半期から継続し、売上の増加による販管費率の減少効果もあり、営業利益率3.5%の予想です。

# 産業機械事業



(百万円)



売上高 **3,866**百万円 (前期比+116.5%)  
 営業利益 **379**百万円 (前期比+466百万円)

## 事業概況

- |        |   |
|--------|---|
| 工作機械部門 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本工作機械工業会の4~6月受注総額は前期比3.4%増加<br/>当社は主力の航空機業界等、国内受注は回復傾向にある一方、中国市場での受注減が影響し、部門全体の受注高は前期比10.7%減少</li> <li>■ 大型機の売上計上と、サービス分野の体制強化が利益率向上に寄与し増収増益</li> </ul> |
| 自動機械部門 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人手不足解消に向けた省人化ニーズが引き続き堅調、受注高は前期比42.9%増加</li> <li>■ 製品本体の販売台数の増加により前期比で増収増益</li> </ul>   |

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

13

産業機械事業です。

工作機械部門において、大型機の売上計上とサービス分野の体制強化により利益率が向上し増収増益となりました。

自動機械部門においても人手不足解消に向けた省人化ニーズにより堅調に推移しており増収増益となります。

以上の結果、産業機械事業の売上高は、前期比116.5%増の38億円、営業利益は、黒字転換し3億円となりました。

第1四半期は昨年の受注残により好調に推移しておりますが、2月に発生したランサムウェア被害に関する調査期間の影響や中国市場の動向により受注が減少しており、第2四半期以降の見通しは変更しておりません。

市場環境は国内需要中心に増加しておりますので、計画に対して順調に推移する見通しです。

## 2026年3月期 1Q 連結貸借対照表 (決算短信P3-4)



(百万円)	2025/3	2025/6	増減		2025/3	2025/6	増減
<b>流動資産</b>	407,778	<b>388,108</b>	△19,669	<b>流動負債</b>	267,779	<b>247,115</b>	△20,664
現金及び預金	55,421	<b>19,119</b>	△36,301	支払手形及び買掛金	228,422	<b>214,383</b>	△14,039
受取手形及び売掛金	288,495	<b>278,321</b>	△10,174	短期借入金	8,904	<b>9,304</b>	+400
商品及び製品	45,495	<b>70,544</b>	+25,049	<b>固定負債</b>	20,032	<b>18,576</b>	△1,456
<b>有形固定資産</b>	11,252	<b>12,095</b>	+842	長期借入金	11,799	<b>11,399</b>	△400
<b>無形固定資産</b>	4,973	<b>5,435</b>	+462	<b>負債合計</b>	287,811	<b>265,691</b>	△22,120
<b>投資その他の資産</b>	16,117	<b>14,675</b>	△1,442	<b>純資産合計</b>	152,310	<b>154,623</b>	+2,313
				自己株式	△15,088	<b>△15,542</b>	△453
<b>資産合計</b>	440,122	<b>420,315</b>	△19,807	<b>負債純資産合計</b>	440,122	<b>420,315</b>	△19,807

現金及び預金	55,421	→	<b>19,119</b>	△36,301	製品在庫の増加に伴う現預金の減少
受取手形及び売掛金	288,495	→	<b>278,321</b>	△10,174	DISの売上債権の回収
支払手形及び買掛金	228,422	→	<b>214,383</b>	△14,039	DISの仕入債務の減少

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

14

貸借対照表について補足させていただきます。

資産の部です。

現預金残高は、前期末比363億円減の191億円となります。

Windows更新やGIGAスクールの需要に対応するため、製品在庫を増やしていることが要因です。よって、商品及び製品は、前期末比250億円増の705億円となっております。受取手形及び売掛金は、前期末比101億円減の2,783億円。

負債・純資産の部です。

支払手形及び買掛金は、前期末比140億円減の2,143億円となっております。借入金総額は、207億円となり、変更ありません。

## 2026年3月期 1Q累計 連結損益計算書 (決算短信P5)



(百万円)	2025/3 1Q		2026/3 1Q		増減	前期比
	実績	率	実績	率		
<b>売上高</b>	227,844		<b>290,601</b>		+62,757	+27.5%
売上総利益	14,759	6.5%	<b>22,099</b>	<b>7.6%</b>	+7,340	+49.7%
販売費及び一般管理費	10,484	4.6%	<b>12,222</b>	<b>4.2%</b>	+1,738	+16.6%
<b>営業利益</b>	4,274	1.9%	<b>9,876</b>	<b>3.4%</b>	+5,602	+131.1%
<b>経常利益</b>	4,528	2.0%	<b>10,111</b>	<b>3.5%</b>	+5,582	+123.3%
特別利益	0		<b>270</b>		+270	-
特別損失	1		<b>0</b>		△1	-
<b>親会社株主に帰属する 四半期純利益</b>	3,079	1.4%	<b>7,195</b>	<b>2.5%</b>	+4,115	+133.7%

特別利益

蘇州大和針織服装有限公司の清算結了に伴う清算益

損益計算書について補足します。

売上総利益率が1.1%改善しており、増益の要因となっております。  
販売費及び一般管理費は、前期比17億円増の122億円となりましたが、  
売上の増加により販管費比率は4.6%から4.2%へ減少しました。

# 株主還元



**1株配当**

**自己株式取得**

**配当性向**

**総還元性向**

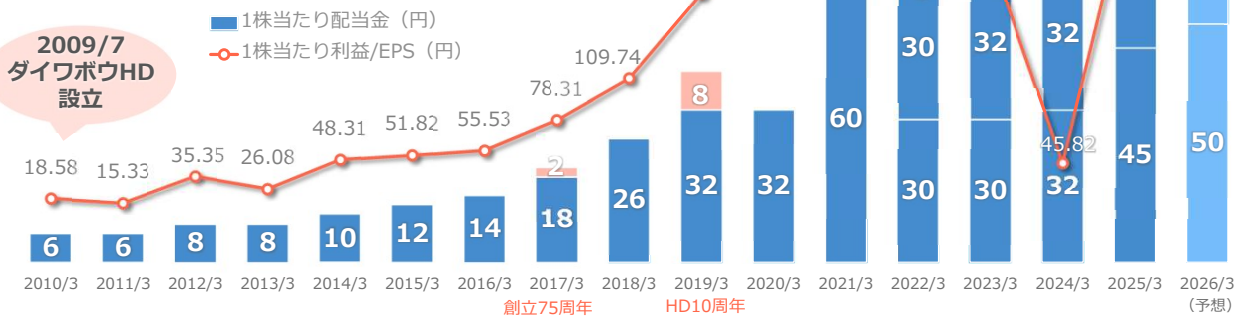
**2026年3月期 (予想)**

中間 50円 期末 50円 年間 100円

上限80億円  
(2025/7/1~2026/2/27予定)

29.8%

56.4%



※株式会社 (2017/10/1)・株式分割 (2021/4/1) を過年度に遡及して表示

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

16

最後に、株主還元についてご説明いたします。

設立以降の、1株あたりの配当金、およびEPSの推移はご覧のとおりです。好調な今期の業績を反映し、2026年3月期の配当については、中間50円、期末50円の100円を予定しております。

自己株式取得は、上限80億円に設定し7月1日から開始しております。

以上により、第1四半期終了時点での、期末予想\_配当性向は29.8%、総還元性向は56.4%となる見通しです。

配当性向30%以上、総還元性向60%以上の還元方針に変更はありません。今後の業績に応じて適切に判断して参ります。

私からのご説明は以上になります。ありがとうございました。

## 参考資料

- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

## 成長分野でのポジション & バリューアップ

- クラウドプラットフォーム市場でのシェア拡大
- SaaSモデルにおける事業領域の拡大



## DX推進によるパートナーリレーションシップ

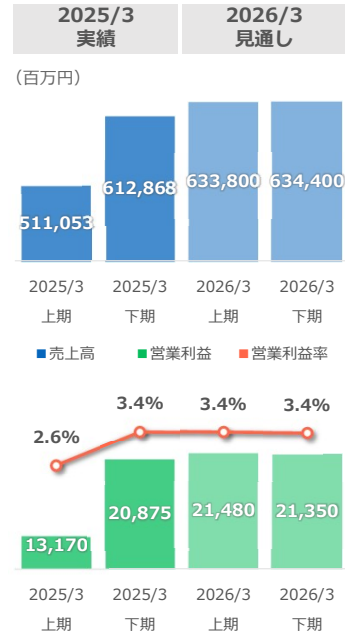
- 企業価値向上に向けたビジネスモデル変革 生産性向上の実現
- 先端技術を含む海外ベンダー拡販による事業領域拡大

## 業界リーダー企業としてコア領域の深化

- ITデバイス基盤における事業領域の拡大
- 高付加価値商材ビジネス領域の成長
- 技術専門部隊による支援体制を整備し提案力強化

## 企業ブランディングと戦略的投資

- 社会認知度向上、業界発展への寄与および地域社会への貢献
- 事業強化に向けた投資（システム、M&A、業務提携）
- 業界最適化に向けた投資（物流機能、iKAZUCHI（雷））



# ITインフラ流通事業 四半期別 業績比較



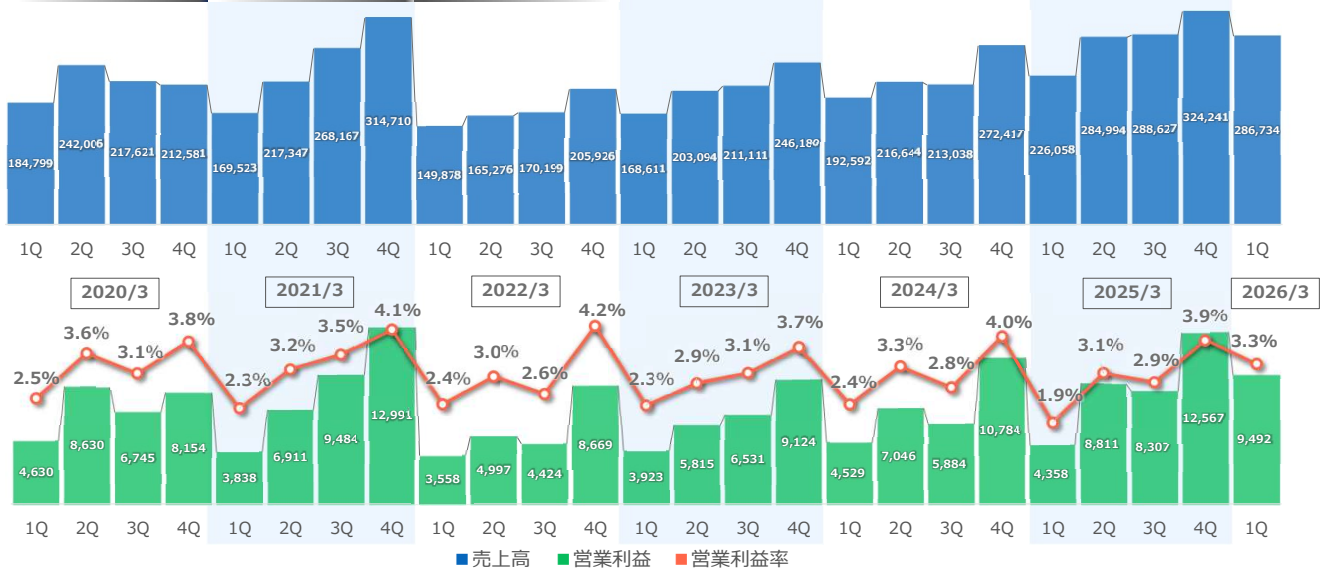
(百万円)

Windows7EOSによる更新需要

GIGAスクール第1期

収益認識に関する会計基準の適用

Windows10EOSによる更新需要



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

# ダイワボウ情報システム（DIS）の歩み



## 1982 DIS創業

- 大和紡績が、PC活用による生産現場のモニタリングシステムを自社開発したノウハウを生かして、わずか10名でスタート
- システム開発・販売ではなく、PCをはじめとした情報機器の販売にシフト

## 1983-1984 多店舗展開

- 大和紡績の工場があった佐賀・出雲・金沢に支店を開設し、いずれも早期に黒字化したことで多店舗展開を加速

## 1998 DIS-NET稼働

- 販売管理システム「DIS-NET」を本格稼働し、創業以来の伝統である即納体制をさらに強化

## 2000 iDATEN(韋駄天)稼働

- BtoB販売支援Webサイトで24時間365日注文受付可能に

1996/3  
1,000億円突破

1999/3  
2,000億円突破

2003/3  
3,000億円突破

2000  
DIS東証1部上場

2012/3  
4,000億円突破

2014/3  
5,000億円突破

2019/3  
6,000億円突破

2009  
経営統合  
・HD体制の「ITインフラ流通事業」  
として位置づけ

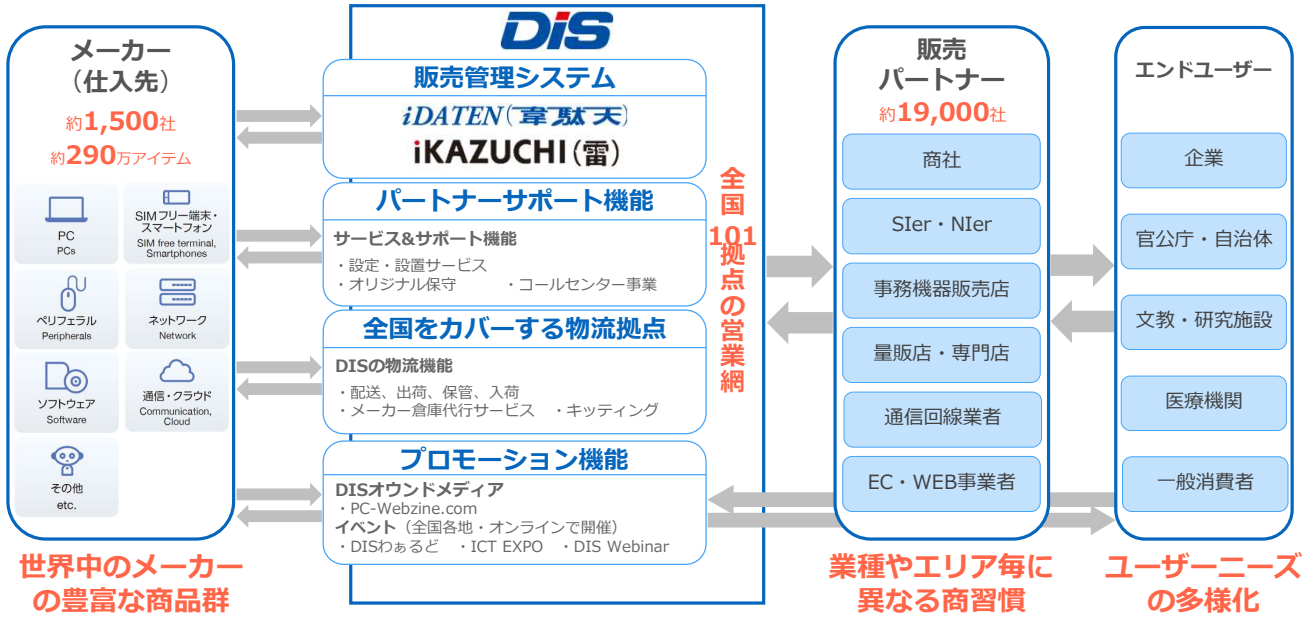
2020/3  
8,000億円突破

2021/3  
9,000億円突破

2025/3  
1兆円突破

DIS単体  
売上高推移

# ITインフラ流通事業の事業構造



# ディストリビューターの役割と付加価値



## メーカー (仕入先)

約1,500社 約290万アイテム

商品開発
営業・販促
受注・生産
在庫・出荷
請求・回収

一本化  
協業  
代行



一本化  
協業  
代行

## 販売パートナー

約19,000社

選定	設定
提案	納品
見積	支払
発注	顧客対応

DISの営業網を活用し販路拡大・  
販売業務効率化

- 長年培ったサプライチェーンマネジメントにより**全国の需要量・ニーズを連携し、メーカーの生産計画やプロモーションに反映**
- 物流センターをメーカーの倉庫機能として活用することで、**メーカーの時間・コスト節約に加えて、キittingや他社製品と組み合わせた出荷を実現**
- 海外から日本市場に新規参入するメーカーと協業し**国内を網羅した販売網・配送網を提供**

全国101拠点  
の営業網

物流センター

商品選定・  
提案

市場ニーズ  
の把握

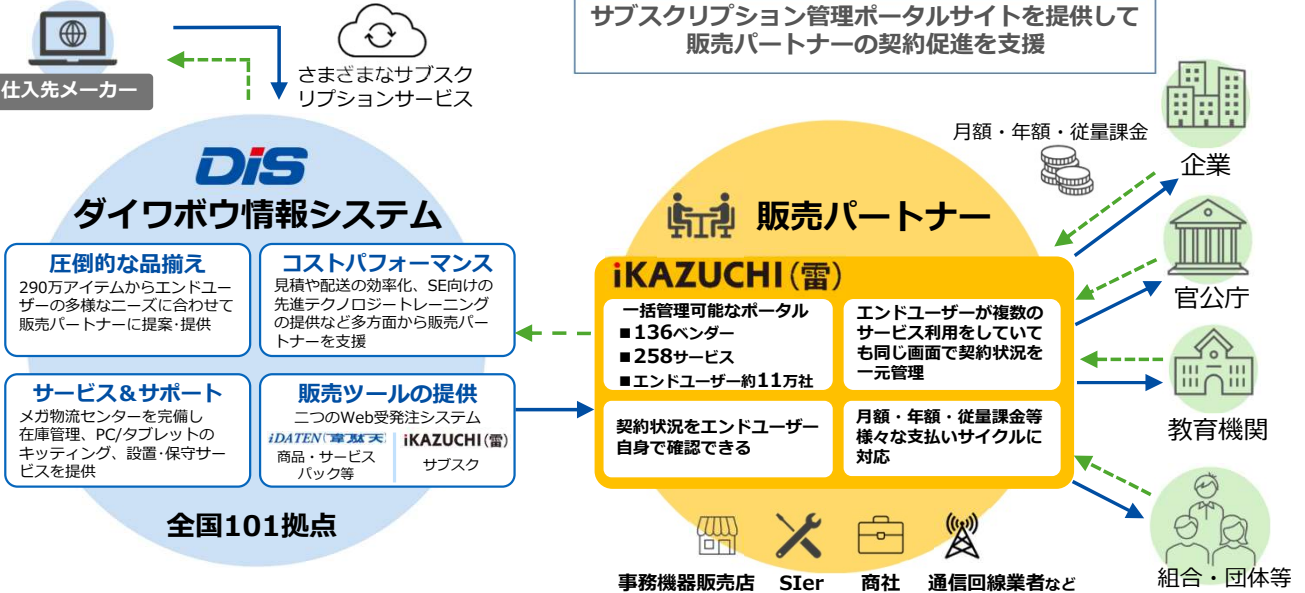
キitting

保守サポート

DISの機能を有効に活用することで  
自社の得意なビジネス領域に注力

- 様々なメーカーの商品・情報を取り揃え、**最適な組み合わせで提案・提供**
- 豊富な在庫から販売パートナーに代わって**全国のエンドユーザーにスピーディに納品**
- 出荷前のキittingや運用、保守、延長保証等の**技術サービスをワンストップで提供**
- 地域特性に応じたイベント開催・プロモーションなど**全国拠点を活用した需要創出**

# iKAZUCHI(雷)ビジネスモデル



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

※ベンダー、サービス、エンドユーザー数は2025年6月末時点

# 物流センター効率化



## 関西センター（神戸市）



2020年5月本格稼働  
倉庫面積：36,342㎡

## 関東中央センター（埼玉県吉見町）



2016年6月本格稼働  
倉庫面積：44,753㎡



東西メガセンターを中心に  
効率化・生産性向上に注力

### ロボットストレージシステム

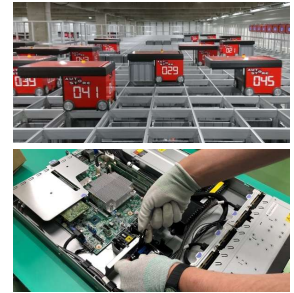
→作業効率・スペース最適化  
【ロボット稼働台数】  
関東中央：45台、関西：30台

### キittingセンター併設

→入荷＞作業＞出荷に迅速対応  
PC・タブレット：年間26.2万台  
キitting実績（2025/3期）

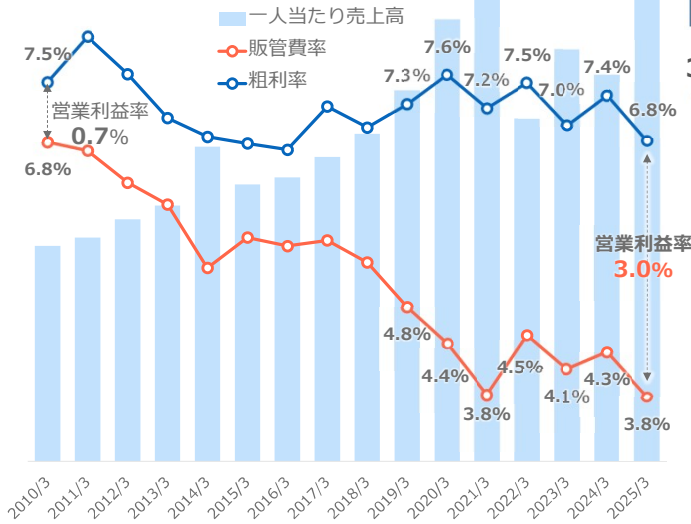
### トラック予約受付システム

→入出荷情報の共有・車両平準化



# 営業効率化とローコストオペレーション

ITインフラ流通事業 実績



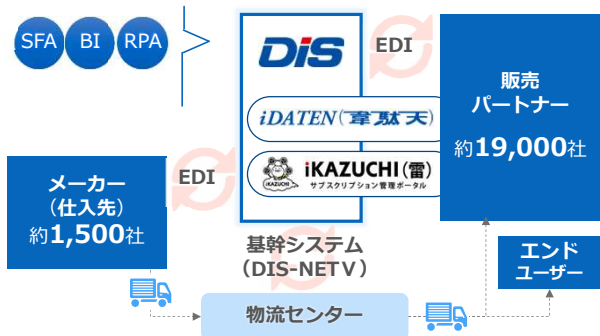
※連結調整を反映していませんのでセグメント実績とは異なります

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

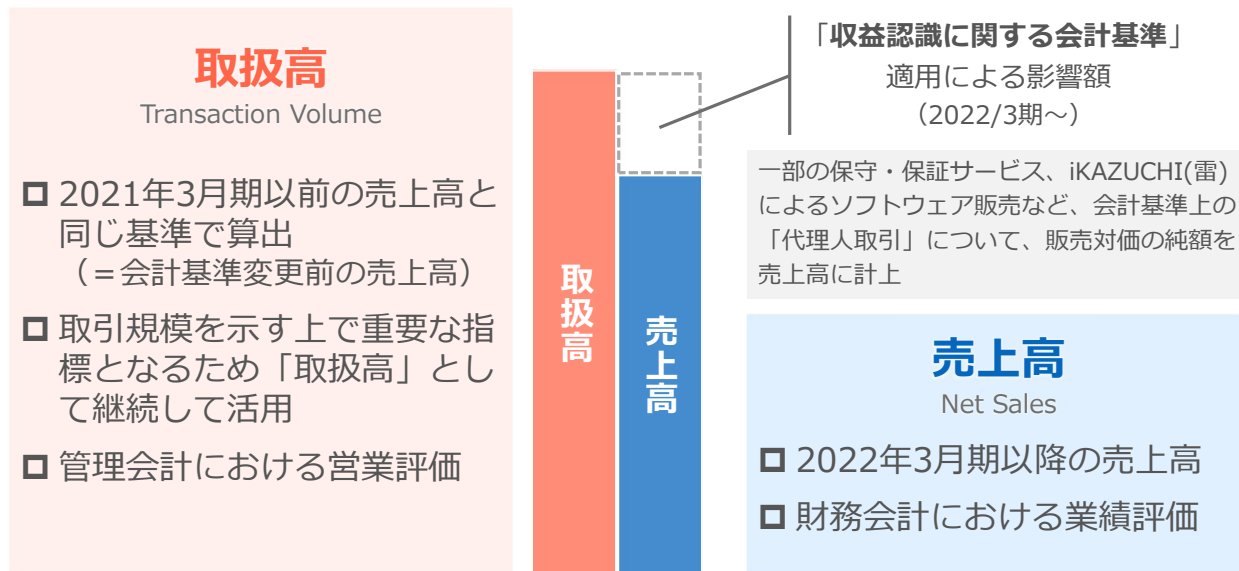
## 1兆円を超える売上高を支えるシステム基盤の強化

### 3年で以下の機能強化を実施

- 性能向上のため機器スペック増強、可用性改善
- 既存システムの移行、非互換プログラムの改修を含むマイグレーション
- 災害・障害・セキュリティ対策と運用管理改善・可用性向上
- 社内システム連携強化、自動化
- iDATEN（韋駄天）、iKAZUCHI（雷）、EDIなどの機能強化



## (補足) ITインフラ流通事業の「取扱高」について



## 工作機械における在庫販売戦略

- 長岡工場組立工場増築による戦略的かつ計画的な在庫販売戦略の強化
- 短納期販売を促進し米国・中国市場での売上を拡大
- 海外市場の拡大を目指し、成長が見込まれる地域の市場調査を実施

- 航空機・エネルギー業界に向けた高精度立旋盤の開発と提案の実施

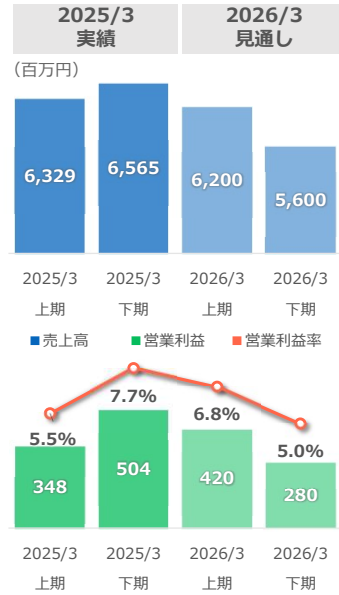


## 自動機械における収益改善の取り組み

- 受注案件における適切なリスク評価による生産の標準化
- 製造委託推進による原価改善
- 食品・製菓・医薬品業界に向けたニーズに即した提案営業の強化

## サービス強化による収益力向上

- 顧客満足度向上と安定的な収益拡大を図る
- 導入済み機台のオーバーホール提案を重点的に実施
- 協力企業の開拓や社員のスキルアップによる技術力向上



※ランサムウェア被害による営業活動の停滞と復旧作業の影響で、26年3月期下期業績が減少予想

## 立旋盤



- 中・大型で**国内シェアNo.1**（累計出荷台数**7,700**台超）
- 「立旋盤のオーエム」として国内外で高い評価を獲得
- 工作物を水平方向に回転するテーブルに取り付けて切削する機械で、テーブル径は800～6,000mmと幅広く多様な生産形態に対応し、高剛性・高精度で操作性に優れ、航空機エンジン、風力発電の部品をはじめ、あらゆる分野のマザーマシンとして活躍
- 左の写真は小型汎用機「RT-915」

## 車輪旋盤



- 鉄道車両のメンテナンスに使われる専用工作機械で鉄道の安全と乗り心地の向上に寄与
- 床下車輪旋盤で**国内シェアNo.1**
- 世界初の車輪旋盤を製作し全世界向けに多くの納入実績のあるドイツのヘーゲンシャイト社より技術供与を受けて国産化、設計・部品・ソフトウェアはすべてオリジナル製作

## 自動機械

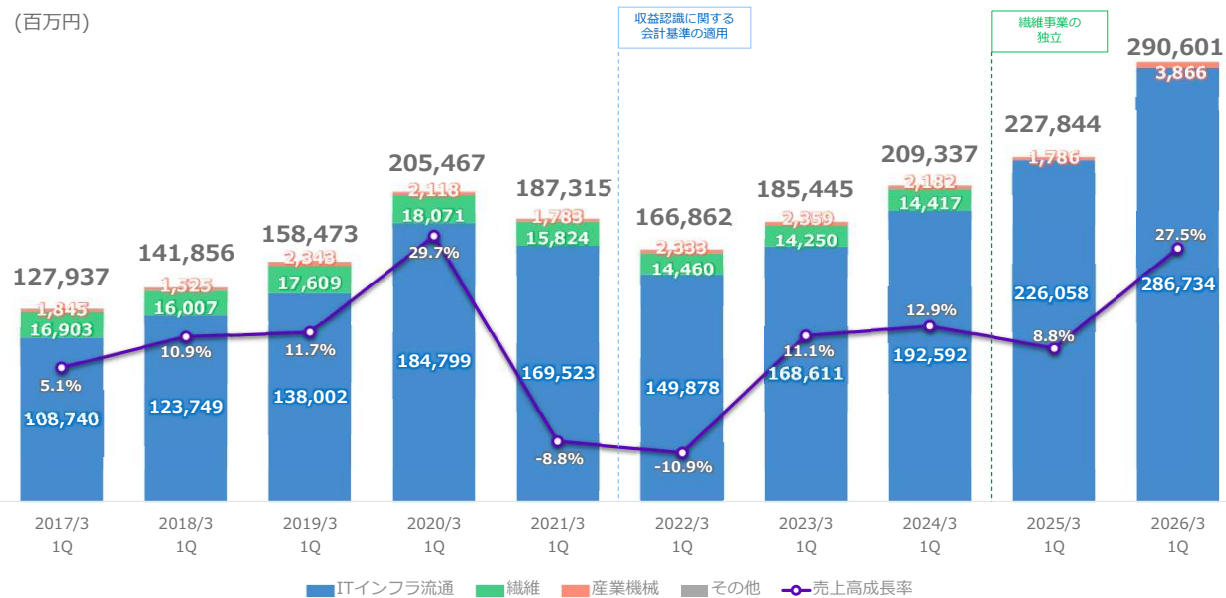


- カートナー（小箱詰機）や、個包装された商品を集積してフィルムで包む中間包装機、段ボールケーサーなど幅広い自動機械を製作（左の写真は横型連続カートナー）
- ライフサイクルが短く多様化が顕著な食品や、製造基準の厳格化が進む医薬品など、変化の激しい分野の包装工程のニーズに柔軟に対応できる技術と発想力が強み

# 連結売上高（1Q累計期間）



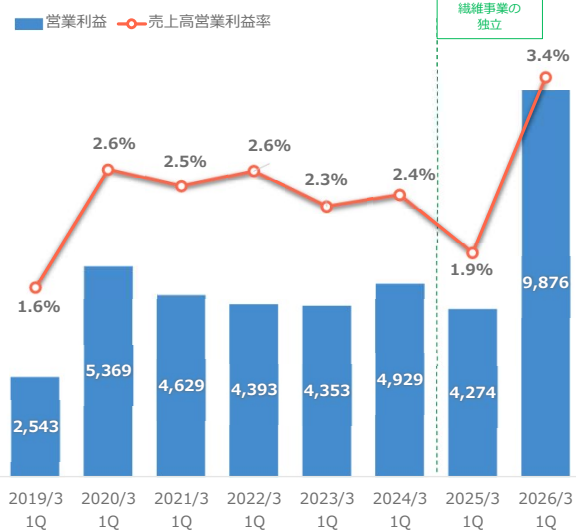
(百万円)



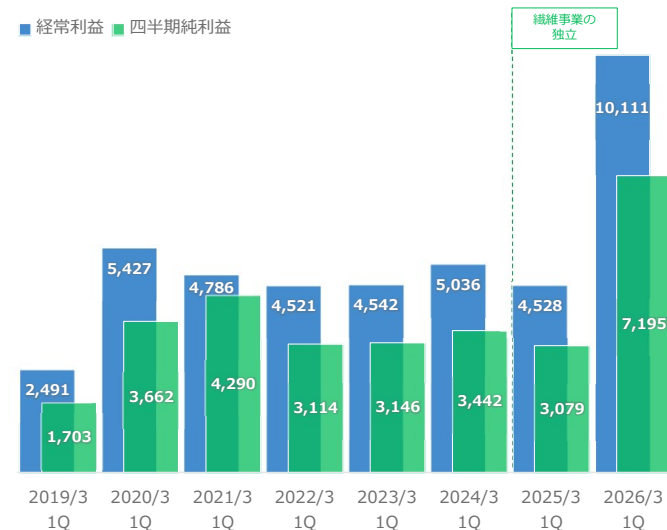
# 連結営業利益・経常利益・四半期純利益 (1Q累計期間)



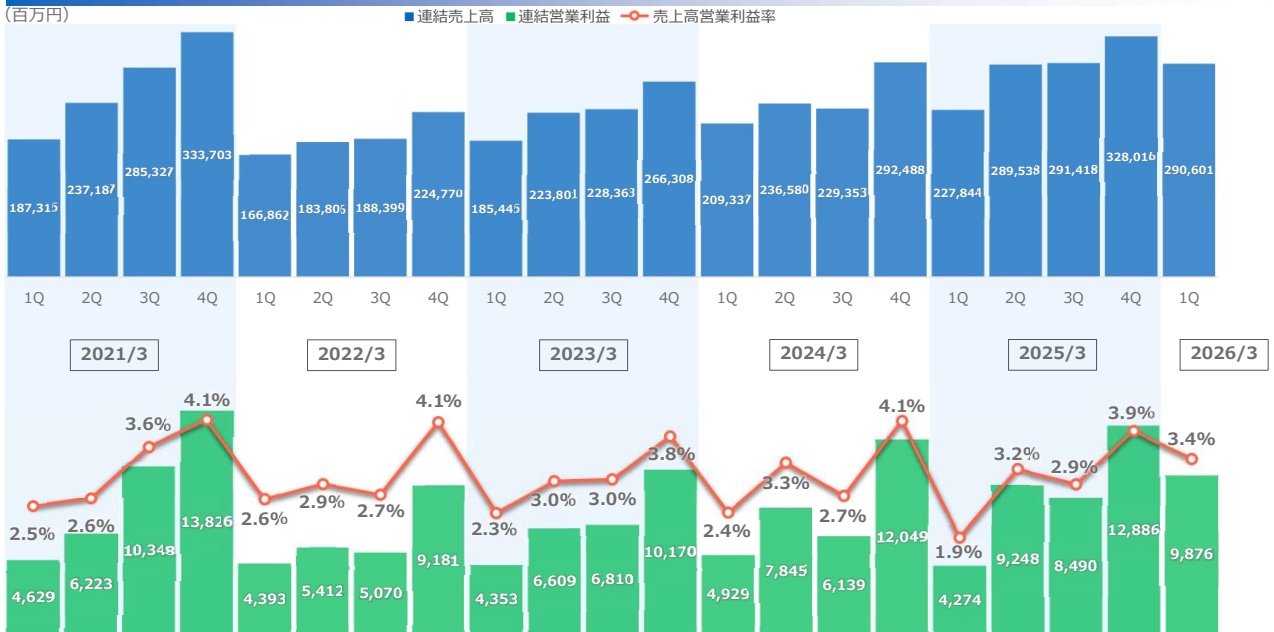
連結営業利益 (百万円)



連結経常利益・四半期純利益 (百万円)



# 四半期別業績 推移

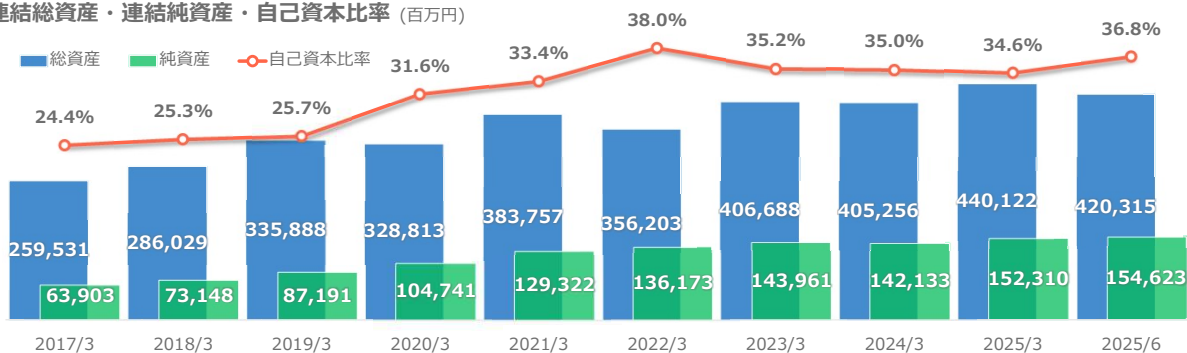


© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

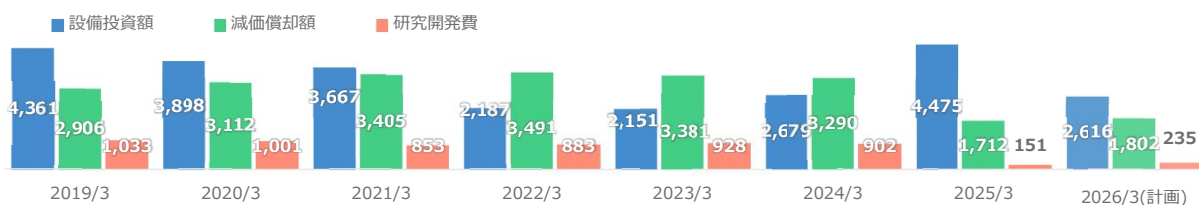
# 連結業績推移



連結総資産・連結純資産・自己資本比率 (百万円)



設備投資額・減価償却額・研究開発費 (百万円)



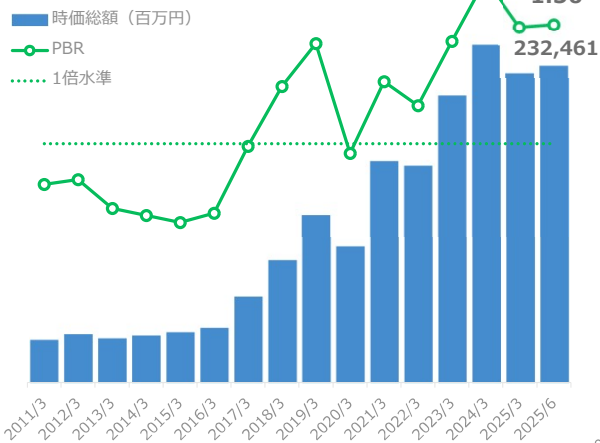
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

# 株価推移



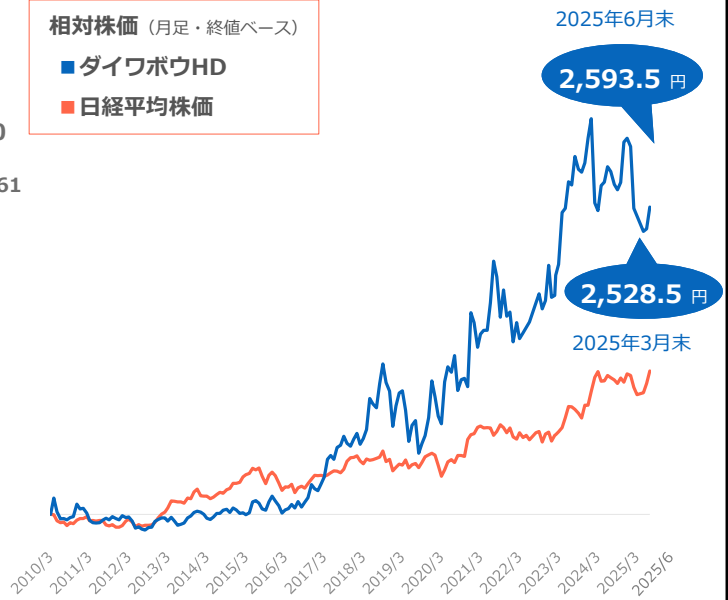
**PBR 1.50倍**

**時価総額 232,461**百万円  
※2025/6終値ベース



相対株価 (月足・終値ベース)

- ダイワボウHD
- 日経平均株価



(百万円)

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

※当社株価は株式会社 (2017/10/1)・株式分割 (2021/4/1) を過年度に遡及して表示

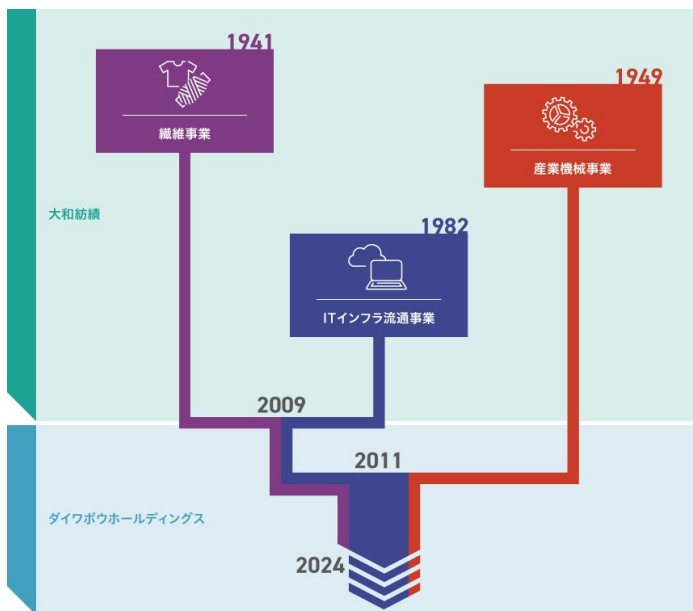
# ダイワボウホールディングス株式会社



本社所在地	〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト	
設立日	大和紡績として創立 ダイワボウホールディングス設立	1941年4月1日 2009年7月1日
連結従業員数	2,928名（2025年3月末現在）	
資本金	216億9,674万4,900円	
株式	東証プライム市場 証券コード <b>3107</b> / 業種： <b>卸売業</b> <JPX日経インデックス400構成銘柄>	
事業内容	<b>ITインフラ流通事業</b> [中核会社] <b>DIS</b> ダイワボウ情報システム株式会社	コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売 および物流サービス業 コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業
	<b>産業機械事業</b> [中核会社]  <b>オーエム製作所</b>	工作機械、自動機械および铸件製品の製造販売業

※大和紡績株式会社は2024年3月27日に独立いたしました。  
(発行済株式の85%を株式会社アスプラントグループへ譲渡)

# グループの沿革



- 1941. 4 錦華紡績、日出紡織、出雲製織および和歌山紡織の4社が合併し、**大和紡績**として発足
- 1949. 5 大和紡績が東証1部上場
- 1949. 7 大和紡績が穴道工場を分離し、大和機械工業（現**オーエム製作所**）を設立  
→その後、工作機械・紡績機の製造を手掛けていた大阪機械製作所と1960年に合併しオーエム製作所が誕生
- 1971.11 オーエム製作所が東証1部上場
- 1982. 4 大和紡績が新規展開の一環として、情報関連事業へ進出するために**ダイワボウ情報システム**を設立
- 2000. 9 ダイワボウ情報システムが東証1部上場
- 2009. 4 大和紡績とダイワボウ情報システムが経営統合
- 2009. 7 大和紡績が**ダイワボウホールディングス**へ商号変更  
繊維事業の中核会社として新たに**大和紡績**を設立
- 2011. 7 ダイワボウホールディングスとオーエム製作所が経営統合 ⇒**3事業体制**へ
- 2023.11 大和紡績の独立化（株式譲渡）を決定
- 2024. 3 株式譲渡により**大和紡績が独立**



ダイワボウホールディングス株式会社

<https://www.daiwabo-holdings.com/>



ニュース

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/news.html>

ダイワボウグループ一覧

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/group.html>

沿革

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/company/history.html>

#### 【免責事項】

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。なお、当社は理由の如何にかかわらず、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。